

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 3 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890500550
事業所名 (ユニット名)	グループホームあすなろ Aユニット
記入者(管理者) 氏名	伊藤有依子
自己評価作成日	令和 3年 2月 5日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔で楽しく穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(初回受審)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>昨年5月に市内の住宅街に開設された2階建ての新しい事業所は、利用者や来訪者を気持ち良く出迎えてくれる。事業所の隣には、既存の建物を改修した同法人のサービス付き高齢者向け住宅がある。法人・事業所として、理念のほか、ケアの方針があり、利用者自ら「出来る、選べる」ことなどを尊重したケアの実現に向けて、取り組んでいる。月1回実施する職員会の終了後には社内研修を行い、職員の育成に取り組むとともに、職員の意見を取り入れながら、管理者等は働きやすい職場づくりに努めている。心身機能の維持のため、利用者や職員の腰痛予防にも取り組み、毎朝ラジオ体操を実施している。現在のコロナ禍において、面会制限や外出自粛となっているが、プランターで野菜や花を栽培したり、たこ焼きやお好み焼きパーティーを実施したりするなど、利用者が笑顔で楽しく暮らせるよう支援している。また事業所は新設のこともあり、地域住民との交流がほとんど取れていないこともあり、コロナ禍の終息後には、昨年中止となった夕涼みに地域住民が参加できるように声をかけをしたり、自治会長や地元の職員等の協力を得たりするなど、職員間で検討しながら、少しでも交流が始まることを期待したい。また、職員と利用者の良好な関係もあり、互いに声をかけ合いながら、和やかに過ごす様子を見ることができた。</p>
----------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思い暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いや意向を表現できるよう把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや意向の聞き取りをして、フェイスシート等に記録している。日々の暮らしの中でも、職員は利用者に話しかけ、新たな情報を聞くこともある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや職員会議で情報を共有し、ご本人の目線にたって話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族との面会時等にお話を聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	職員間での情報共有をしているが、あまり記録には残せていない	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	関わりのなかの会話等で、ご本人の思いを引き出せるよう取り組んでいる	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や本人に聞き取りを行い、面会時にも情報を聞くよう努めている	/	/	○	入居時に、利用者や家族からこれまでの暮らし方などを聞いて、所定のフェイスシートに記録しているほか、家族の面会時にも新たな情報を聞くこともある。また、以前利用していた施設や介護サービス事業所の介護支援専門員等から情報を聞くこともある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の様子を職員間で共有し、申し送り時とノートにて把握できるようにしている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々観察し、些細な変化や気付きがあれば職員間でも共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送り時に個々の様子を話し、要因になっていることについて話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護日誌、健康管理表を活用し、申し送り時に情報の共有を行っている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様やご家族の思いやニーズを考え、都度申し送り時に話し合うようにしている	/	/	○	月1回職員会を実施するほか、終了後には各ユニットに分かれて、カンファレンス等を実施し、職員間で話し合いをしている。また、課題等がある場合には、必要に応じて日々の申し送り時に、その日の出勤職員で、簡易のカンファレンスを実施することもある。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	都度申し送り時に話し合うようにしている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明らかにするよう努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の意向が聞き取れない場合は家族の意向に沿う内容となっている	/	/	/	利用者や家族の思い等と医師の意見のほか、職員の意見やアイデアを出し合いながら全職員で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。意思疎通ができない利用者にも、家族の意見を取り入れながら、以前の暮らしや表情などを参考にしながら職員間で検討して、介護計画の内容に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員会や日々のご家族からの聞き取りにより、反映するようにしている	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	個々の身体状況に応じた内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	受診については、ご家族が可能であれば協力してもらっている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握はできていないが、意識的に把握し共有するよう努めている	/	/	/	利用者ごとの個人ファイルに、介護計画の内容を分かりやすく貼り付けや記載をしておき、職員はいつでも介護計画の内容を確認することができる。サービスの実施内容は、介護記録のケアチェック表を活用して、分かりやすく記載しているほか、利用者の細かな様子や発した言葉も記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	職員にも意見を聞き取りモニタリングを行っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記録している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	申し送り時や職員会で話し合い共有しているが、あまり記録には残せていない	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	短期目標の期間に応じて見直しを行っている	/	/	/	◎ 初回は3か月に1回、2回目からは6か月に1回、介護計画の見直しをしている。月1回開催される各ユニットのカンファレンス等の中で、モニタリングを実施し、職員から活発な意見やアイデアを出し合いながら話し合うほか、計画の見直しの時期には、全職員が参加する職員会の中で、計画の見直しに向けた話し合いもしている。また、特段の変化のない場合にも職員間で話し合い、まだ例は少ないが、急変時には現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回の職員会で個々の現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば本人、家族、主治医と話し合い、計画の見直し、変更を行っている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回は職員会を行い、緊急時は現場の職員間で話し合いを行っている	/	/	/	月1回職員会を実施し、業務連絡等と終了後には研修を実施している。職員会後に、各ユニットに分かれてカンファレンス等を実施している。必要に応じて、その日の出勤職員で、申し送り後にその都度話し合いをすることも。また、参加できなかった職員には、職員会の記録を確認してもらうほか、夕方の申し送り時にも伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	話しやすい雰囲気づくりが出来ている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日程を調整し、不参加の職員にもわかるよう申し送りを行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送り事項を説明している	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日の申し送りを行っている	/	/	/	◎ 申し送りノートを職員に確認してもらい、サインや押印をする仕組みができています。また、各ユニットの職員に確実に情報伝達ができるよう、朝の申し送り時には直近5日分の内容の情報を伝達されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用し、朝夕の申し送り時にも共有している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	訴えに対して可能な限り行っている	/	/	/	日々の暮らしの中で、職員から利用者へ声をかけ、思いや意向を聞いている。パンの購入希望のある利用者には、購入を行うが、他の利用者の中で食べることに影響を説明し、居室で食べられるよう支援したり、帰宅願望や外出希望のある利用者には、車でドライブをしたりしている。利用者にはレクリエーションなど、したいことを自己決定してもらえるよう支援している。移動式のカラオケシステムがあり、みんなでカラオケを楽しんだり、季節を感じてもらえるよう、近くの菜の花畑を見に行ったりするなど、利用者の生き生きとした表情が見られるよう支援している。職員が持ってきた土筆の袴取りには、喜んで取り組んでいた。意思疎通が困難な利用者にも、懐かしい歌を聞く時の目の動きや表情などから、思いを汲み取るよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択が可能な方には、ご本人の希望を傾聴し決めて頂いている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	様子を観察しながら会話、交流し気持ちに沿うよう対応している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活習慣やご本人の特性を観察し、希望に応じて対応している	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔になれるような言葉かけに努めている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	反応や態度を観察し、些細な変化にも気付くことができるよう努めている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけないような声替えを行い穏やかな態度で接するようになっている	◎	-	◎	月1回の職員会後に、社内研修を実施しており、職員は利用者の人権や尊厳等について学んでいる。年2回事業所内で法人研修があり、「利用者のプライバシーや声かけ」などをテーマに取り上げた研修も実施している。気になる行為があった場合には、職員間で話し合いをしている。また、居室時の入室時にはノックして声かけをするほか、不在時にも事前に利用者へ声をかけて確認している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法や声の大きさ等配慮のある声掛けを行っている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時、排泄時は担当者以外は出入りを控えるようにしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にはノックして入室するようになっている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	業務上知り得た個人情報については厳重に管理し、むやみに話題にしないようにしている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳む、掃除、洗い物など出来ることを手伝ってもらい、感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	認知症に伴い、利用者同士が言い合いのトラブルになる場合があるが、職員が間に入って仲裁をしている。職員は、利用者同士の関係性も把握しており、席替えなどの対応もしている。また、訪問調査日には、利用者同士が仲睦まじく、声をかけ合う姿を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声を掛け合い、励ましあえるような関係づくりを作れるよう努めている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	都度、座席やテーブルの配置換えをしたり、職員が間に入って関係性が良くなるよう配慮している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時には間に入り、お互いから傾聴し関係性が悪化しないよう注意している	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントをもとにご本人との会話交流の中で情報を得ている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	以前利用していた場所等を聞き取り把握するよう努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により外出ができていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響により面会が行えないが、面会が可能になればご本人の希望や状態により居室で過ごしていただく予定である	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルスの影響がない時には散歩や外出を行っていたが、現在は玄関先までの日光浴等固定されている	○	-	○	現在、コロナ禍のため外出行事など、利用者の外出は制限されているが、事業所前の駐車場や2階のベランダに出て日光浴をしたり、プランターの野菜に水やりをしたりするなど、気分転換をしている。家族の協力を得て、外出をする利用者もおり、自宅に帰って一緒に食事をしたり、お墓参りをしたりすることもある。また、外出ができない代わりに、室内でたこ焼きやお好み焼きなどのパーティーをしたり、水鉄砲を使った遊びなどを取り入れたりする工夫もしている。介護計画の中に、外出支援を取り入れている利用者もおり、コロナ禍の終息後には、季節の花見などの外出行事を実施したり、近隣への散歩や買い物支援をしたりするなどの取組みを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルスの影響により行っていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	×	コロナウイルスの影響により行っていない	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナウイルスの影響により行っていないが、緩和すればご家族の協力も得ながら外出を行っていただく予定	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	傾聴は行っているが、声掛けや対応がスムーズに行っていない時がある	/	/	/	毎日10時から腰痛予防のため、利用者と職員はラジオ体操を実施している。廊下は長くて広く、手すりを活用しながら、歩行訓練をする利用者もいる。事業所には、「ケアの方針」もあり、「出来ることは自分でして頂く」よう取り組んでおり、職員は待つ支援や見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	筋力維持につながる遊びや、体操を行い、嚥下体操も毎日行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご本人の身体能力にあったレクリエーションや作業に取り組んでいただけるよう観察しながら努めている	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	家事や生活リズム等、ご本人の習慣を崩さないよう取り組んでいる	/	/	/	食器洗いや洗濯物たたみ、毎朝の清掃など、利用者ではできることを手伝っている。事業所には移動式のカラオケ設備があり、1週間おきにユニット間を移動させており、歌うことを楽しみにしている利用者もいる。午前と午後にも、レクリエーションを取り入れ、風船バレーや輪投げ、塗り絵などを楽しんでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの得意なことを把握し、声掛けにて無理せず参加できている	◎	-	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により行っていない	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自宅で愛用していた物を持ってきていただいている	/	/	/	毎日、自分のお気に入りの服を着たり、お化粧をしたりすることを楽しむ利用者もいる。起床時等に、衣服の乱れが見られた場合には、職員が声をかけて説明の上で、利用者に着替え等をしてもらっている。着替え等介助の必要な利用者には、その日着てもらふ服を職員が声をかけて、選んでもらえるよう支援している。また、2か月に1回、訪問理美容があり、利用者は髪型を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	ご本人の希望や意向に沿うよう対応している	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けを行いご本人が納得できるように努めている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の意思を確認しながら服装を選んでいただくよう努めている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドが傷つけないよう声掛けに配慮し対応している	◎	-	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	ご本人希望の理美容店があれば、ご家族の協力を得て外出を行っている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	意思疎通が困難な場合にはご家族からの情報を元に、ご本人が好む服装や髪形になるよう支援している	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	彩や形に考慮し、出来る限り口から摂取していただけるよう支援している	/	/	/	事業所では業者の配食サービスを活用し、各ユニットで炊飯と汁物を準備し、食材を湯煎して盛り付けをしている。利用者の苦手な食材のメニュー時には、事前に業者に伝え、代替えの食材を準備している。現在アレルギーのある利用者はいないが、利用者に食事形態に応じて、事業所内でミキサー食などの対応をしている。利用者は、食器洗いや下膳などできることを手伝っている。現在のコロナ禍において、利用者と一緒に食事はしていないが、以前は職員が持参した弁当等を一緒に食べることができていた。また、月1回は、職員が利用者のリクエストを取り入れた調理をしており、ばら寿司は特に利用者に喜ばれている。配食業者との会議は特設設けていないが、管理者等から業者に普段から意見を伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物、献立作り食材選び、調理は出来ていないが、後片付けは一緒に行っている	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	ともに行った作業後には必ず感謝を伝え、自信をもっていただけるよう努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人の様子や、ご家族から情報を得て把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	×	配食サービスを利用しているため献立作りを行っていない	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ご本人の嚥下状態に見合った食事を提供している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食事時には施設の物を使用し、居室で使うものはご本人が愛用されていた物を持参していただいている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染予防の為、一緒に食事はとっていないが、見守りやサポートが行える体制をとっている	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前には今日のメニューや調理方法等食事に関わる会話を行っている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	介護記録に食分量、水分摂取量を記入するようにしている	/	/	/	
		k	食分量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人の希望を聞き、様々な飲み物や食べ物を提供している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	手作り食の際は話し合いを行い、その他は配食サービスを使用している	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前の手洗い・アルコール消毒を常に励行している	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後に歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている				朝昼晩の食後には、居室の洗面台で口腔ケアを実施している。介助の必要な利用者は、共用空間の洗面台を活用して、職員ができない部分の介助をしている。定期的に、利用者一人ひとりの口腔内の状況を確認している。また、4月には、歯科医の協力を得て、口腔ケアの研修を予定している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	異変があれば情報共有を行い、ご家族とも相談してうえで必要に応じて歯科受診、訪問歯科を利用している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	4月に歯科医の検診を行い、口腔ケアについて学ぶ予定である				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	それぞれの状態に応じて支援できている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨きの声掛け・見守りを行い出来るだけ自分で行えるよう支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常を発見した際にはご家族に報告し歯科受診を行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し、排泄の自立に向けて支援している				事業所では、日中トイレでの排泄を基本として、声かけやトイレ誘導をしている。紙パンツやオムツを履いている重度な利用者も多く、職員が2人体制で排泄介助をしている。また、便秘の利用者も多く、利用者にマッサージを行ったり、ヨーグルトやホットミルクなどを取り入れたりする工夫をしている。便秘がひどく、改善しない場合は、医師に相談している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、便秘予防に努めている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録を通して把握し、共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間で情報を共有し、その都度話し合いを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の表情や行動を観察し、適宜対応している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄する場所や時間帯など、介護記録も参考に考え、スムーズに排泄ができるよう都度対応している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、夜間に合ったものを使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操やマッサージを行ったり、水分摂取を促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の体調に応じて時間帯や曜日を決めている。湯温は都度ご本人に聞くようにしている。		◎	○	利用者は希望に応じて、週2回以上入浴することができる。利用者の好きな温度や入浴時間の希望にも応じている。好きなシャンプーを使用したり、入浴後には保湿剤や化粧水を使用したりする利用者もいる。入浴を拒む利用者には、職員の声かけを工夫している。また、脱衣場のほか、浴室にも冷暖房が完備されて、利用者は温度差を極力感じることなく入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースやこだわりに応じて入浴していただくよう努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存能力を生かし出来ることはしてもらい、転倒や体調の変化に注意しながら入浴できている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴したいという気持ちになれるよう声掛けを行っている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルの確認を行い、入浴前後に異常がないか注意している				

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の排泄パターンの把握により、おおよその睡眠パターンを把握している	/	/	/	日中のレクリエーションなどの活動量を増やし、利用者が安眠できるよう努めている。睡眠につながりやすいよう、夕方に入浴する利用者もいる。利用者は21時ごろに就寝できているが、中には早起きの利用者もあり、早朝から職員が対応している場合もある。また、入居前から眠剤を服用している利用者もあり、医師と相談しながら減薬にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方について、朝夕の申し送りでも共有し、原因を考え過ごし方を話し合っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師に相談を行いながら、日中の過ごし方を話し合い、共有している	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	気兼ねなく静養できるような声掛け、見守りを行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の要望があれば電話をかけている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	絵手紙作成のレクリエーションでは、ご本人が伝えたいことを聞き、職員が代筆を行った	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応を行っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙はご本人にお渡しし、いつでも読むことができるよう居室に保管している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族から手紙や電話があることも多くあり、協力を得られている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	ほぼ全員の方が自己管理は難しい為、ご家族より預かっている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナウイルスの影響により行えていないが、外出や買い物の際に使う機会を持っていた	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自己管理は難しい為、ご家族と相談し、ご本人の使いたいとの希望があれば対応できるよう努めている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	自己管理をされている方がいない為、その都度ご家族に許可をとるようにしている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法についてはご家族に説明し、定期的に預り金台帳をご家族に送付し確認していただいている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期受診の際の付き添いや、ご本人の希望の買い物等可能な限りご本人の希望に添えるよう努めている	/	◎	/	コロナ禍において、外出希望の要望には応えられない場合があるが、職員と一緒に買い物に行ったり、家族の協力を得て、自宅への帰宅やお墓参りに出かけたたりしている。また、家族が受診に同行できない場合は、職員が同行支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響により、出入りを制限している	◎	-	○	事業所前には駐車場があり、スロープが備えられている。玄関前にはプランターがあり、花や野菜が植えられている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有スペースに季節にあった飾りつけを行っている	○	-	○	事業所が開設して1年経過していないこともあり、利用者や来訪者、職員は新築ならではの気持ち良さを感じる。共用空間には、ひな祭りなど季節の飾りつけをしており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。職員と利用者が一緒に毎朝清掃しており、清潔感がある。ホールにはカウンターキッチンのほか、テーブル席やソファ席があり、ほとんどの利用者は日中に共用空間に出て、レクリエーションを楽しむことができている。また、2階にはベランダがあり、利用者は日光浴などを行っている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の喚起、掃除を行っており、リビングに空気清浄機を設置している	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の窓があり、毎日の天候を話したり、また、季節感を感じられるように、季節に合わせた飾りつけを利用者様と一緒に作って飾り付けている	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と過ごせるよう椅子を配置したり、居室で自由に静養できるよう配慮している	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	排泄時や入浴時には必ず戸を開めるようにしている	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた物や、ご家族の写真を飾ったりしている	◎	/	◎	居室には、ベッドや洗面台、クローゼット、タンス、カーテン等が備え付けられている。利用者はぬいぐるみやテレビ、空気清浄機、CDラジカセなど、思い思いの物を持ち込むことができる。居室の入り口は引き戸で、写真付きで名前を表示している部屋もある。また、毎日職員が清掃し、清潔が保たれている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉付近に名前を書いた額を貼り、入室がわかるようにしている。トイレには張り紙をし、場所がわかるよう配慮に努めている	/	/	○	利用者が居室を間違えないよう、入り口には許可を得て、写真と名前入りの表示をしている。トイレなどの表示も大きくしているが、どうしても間違えてしまうこともあり、職員は迅速に対応している。また、利用者の動線を確保し、極力空間には物を置かないようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	掃除道具等は倉庫に収納しているため、いつでも手に取れるようには出来ていない。新聞、本はリビングのテーブルの上に置いてあり、誰でも読めるようになっている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解している	x	-	△	職員は、職員会後に実施する身体拘束防止等の研修や話し合いで、鍵をかけることの弊害を理解している。現在コロナ禍のため、外部からの入室制限を設けており、日中も施錠を行い、来訪者にはインターホンで対応をしている。また、ユニット間の出入り口等は、24時から4時までの夜間のみ施錠している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	行動制限の内容にさげなく見守り、声掛けにより促すことで安全が確保できている	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者の状態にもよるが、日中は可能な限り鍵をかけないよう心掛けている	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて管理している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートや介護記録にて周知している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、主治医に電話や往診対応をお願いしている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が得られるよう医療との連携を取り支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告はご家族に伝えて情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日々の受診の際に同行し、主治医に相談する等関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	その都度、報告や相談を行っており病状安定を図っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡可能な体制作りができています				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の申し送りやミーティングを通して支援方法を統一している				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬情報を管理したファイルを共有し、理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表を使用し、準備、服薬前後に確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に副作用に注意しており、変化があれば主治医に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期受診時には必ず状態報告を行っている				

愛媛県グループホームあすなろ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合い、本人家族の意向に沿えるよう支援している	/	/	/	事業所での看取りは実施していないため、指針等は作成していないが、入居時に利用者や家族へ、事業所でも対応できることなどを説明している。事業所は開設して1年目のため、入退院した利用者はいるが、急変時にはかかりつけ医に連絡するほか、病院へ救急搬送することとなっている。また、健康管理等のため、2週間に1回、医師の往診がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	ご本人の状態によって、主治医やご家族と方針を共有している	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員からは聞き取りを行い、いつでも連絡可能な体制にしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約書の文面に記載したり、必要時には再度説明を行っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医等の医療関係者には、本人やご家族の意向に沿って苦しみことなく過ごせるよう相談を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話での相談等、ご家族の気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修等により感染予防について学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがあり、職員が手に取れるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集を行い、マスク着用、消毒、手洗いの徹底と面会の制限を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員のマスク着用、手洗いうがい、消毒の徹底と体温測定での管理を行っており、来訪者にも体温測定、管理簿への記入を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日々の連絡で現状を伝え本人の為に協力してもらっている	/	/	/	現在のコロナ禍において、家族との面会が自粛となっている。感染症対策が落ち着いている時には、事業所前の駐車場に出て面会をしていたほか、入口エントランスとホールのガラス越しに面会をする対応をしていた。家族の面会を制限しているため、職員が家族に会う機会が少ないが、電話で受診時の報告や日々の様子を伝えて意見を聞いているほか、月1回、利用者ごとに管理者等が書いた便りと写真を掲載したものを送付し、喜ばれている。また、夏に開催を予定していた夕涼み会が中止となり、交流もできていない。コロナ禍の終息後には、家族と一緒に参加できる行事を開催したり、家族とのコミュニケーションを密にしたりするなど、良好な関係づくりができるような取組みや検討を期待したい。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来訪時にはゆくりご本人と過ごしていただけるような雰囲気づくりを心掛けているが、現状はコロナウイルスの影響の為面会を行っていない	/	/	/		
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	×		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りでは、ご家族に写真を送付している また、面会の際にご家族に録画を見ていただくこともある	/	/	○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話にて対応している	/	/	/		
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	仲が良かったのか、どういうやり取りをされているか等を把握。現在の症状や、こいう対応で笑顔がある、等のお話をしている	/	/	/		
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事については毎月のお便りでお知らせしているが、職員の異動退職等は載せていない	/	/	×		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/		/
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし、理解していただいている	/	/	/		/
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時にはご家族と話す機会を多く持つようにしている	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時にはご家族、本人に説明を行っている	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去される際はご家族の希望に沿う形での退去となっている	/	/	/		
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明している	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の説明や問題点、認知症への理解を深めていく予定だが、コロナウイルスの影響の為自治会長のみとなっている	/	-	/	昨年5月に新規開設した事業所として、新たに地域の自治会に加入したが、コロナ禍のため地域行事等ほとんど開催されていない。地域住民にも参加を呼びかけて開催することを予定にしていた夏の夕涼み会もコロナ禍のため中止になり、交流はできていない。職員等が地域住民と出会った場合には、挨拶や声かけをしている。今後は、少しでも近隣住民とのつながりができるよう、自治会や地元の職員等を通して、関係づくりができるよう検討することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶や散歩の際の挨拶は行っているが、コロナウイルスの影響の為地域行事には参加できていない	/	-	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響の為交流できていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの影響の為行えていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在はコロナウイルスの影響の為外出出来ないが、以前は買い物等付き添いを行い楽しんでいただいていた	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	訪問理美容を使用したり、隣接する他事業所との協力体制はできているが、外部に関して、あまり積極的な働きかけはできていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	×	/	△	運営推進会議は、コロナ禍のため事業所が開設して以来、書面での会議開催となっている。市担当者や自治会長等にも事業所の出来事や様子が伝わるよう、利用者の様子等の写真やコメントを掲載した報告を一緒に送付している。コロナ禍の終息後の集合形式での会議開催時には、参加者と意見交換をしたり、家族等も含め、少しずつ参加者が増えるような呼びかけを工夫したりするなど、サービスに反映できるような会議開催となることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は報告する予定である	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告書を作成後、文書での報告を行っている	/	-	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルスの影響の為文書開催となっている	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	出来ている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員の話し合いの中で事業所理念をつくり、日々の実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	より理解を深めるために働きかけが必要である。地域の人たちには伝えられていないのが現状である。	△	-		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員のケアの実勢と力量及び本人の希望等を踏まえ、計画的に法人内外の研修参加を行っている	/	/	/	毎月開催する職員会の終了後に研修を実施し、職員育成に努めている。年1回ストレスチェックのほか、必要に応じて管理者等が職員と面談をしている。また、3か月に1回代表者の訪問があるほか、法人の担当部長の訪問もあり、管理者や職員の意見を聞いてくれる。管理者等を中心に、職員の意見を聞き、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は、実務での気付きや必要な知識についてその場その場でアドバイスをしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナウイルスの影響もあり、参加出来ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に声掛けを行い、困っていることはないか尋ねており、ストレスチェックを行っている	◎	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会をもうけ、具体的な内容の理解に努めている	/	/	/	身体拘束・虐待防止等を研修テーマに取り上げ、職員は学んでいる。職員が不適切なケアを発見した場合には、管理者に報告することとなっている。職員と利用者の関係性も良く、目立つような不適切なケアは実施されていない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	日々のケアについて職員ごとに確認を行っているが、ケアの実践につながるような働きかけに工夫が必要である	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケア及び発見時の対処、通報義務については周知している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的にストレスチェックを行い、声掛けを行っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	個々の理解に差があり、意識の統一が必要である	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会や日々の申し送りでも話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	家族からの要望があれば説明を行う	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学ぶ機会はあるが、職員の理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	対象となる方がいれば行う				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	法人には相談に乗ってもらえる環境がある(弁護士、司法書士)				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書を職員会で共有確認し、話し合う機会を設けている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会では個々の現状を確認してリスクや事故防止の為に話し合いを行っている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあるが理解にはバラつきがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情の例がない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情の例がない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者には、普段の日常会話から意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。			○	職員は利用者から、日々の暮らしの中で意見や要望を聞いている。家族からは、電話での報告時等の意見を聞いている。管理者等は、職員から意見を聞き、出された意見は法人の担当部長に伝え、対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明を行っている。面会時等や行事にて来所された時に意見や要望を聞き取るように取り組んでいる。		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初のみでの情報提供である				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し、職員の要望や提案を聞く機会に努めている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員個別の気付きや意見を取り入れ、利用者本位の支援を実践できるように努めている			○	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	外部評価以外は行っていない				初回の地域密着型サービス外部評価のため、自己評価は各ユニットの管理者が職員の意見を取り入れながら作成している。今後は、外部評価のサービス評価をもとにして、目標達成計画の作成や運営推進会議での報告を予定している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	外部評価の結果を職員全員周知し取り組んでいく予定				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定	×	-	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	事業所内での取り組み成果は確認できていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルは作成してあるが、内容についての周知は不十分である。				開設以来、火災を想定した避難訓練を実施し、事業所前の駐車場に避難体験をしている。4月には、消防署の協力を得た防災訓練を予定している。事業所の建物の隣にある同法人のサービス付き高齢者向け住宅に、3日分の食料品を備蓄している。自然災害防災マニュアルがあるが、事業所の現状に対応していないため、マニュアルの見直しや整備することを望みたい。また、万が一の火災等の災害に備え、地域住民の協力が得られるような検討を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練を行っているが、さまざまな時間帯の想定は行っていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災訓練時に行う				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	支援体制についての話し合いは行っていない	×	-	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加できていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない				コロナ禍もあり、地域住民との交流はほとんどできていないため、事業所の関係者の相談支援のみに終わっている。事業所では、外国人の技能実習生の受け入れをしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居者様ご家族の相談支援は行ったことがある		-	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行っていない			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 3 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	0名	

※事業所記入

事業所番号	3890500550
事業所名	グループホームあすなろ
(ユニット名)	Bユニット
記入者(管理者)	
氏名	越智広美
自己評価作成日	令和 3年 2月 5日

<p>【事業所理念】 笑顔で楽しく穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (初回受審)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年5月に市内の住宅街に開設された2階建ての新しい事業所は、利用者や来訪者を気持ち良く出迎えてくれる。事業所の隣には、既存の建物を改修した同法人のサービス付き高齢者向け住宅がある。法人・事業所として、理念のほか、ケアの方針があり、利用者自ら「出来る、選べる」ことなどを尊重したケアの実現に向けて、取り組んでいる。月1回実施する職員会の終了後には社内研修を行い、職員の育成に取り組むとともに、職員の意見を取り入れながら、管理者等は働きやすい職場づくりに努めている。心身機能の維持のため、利用者や職員の腰痛予防にも取り組み、毎朝ラジオ体操を実施している。現在のコロナ禍において、面会制限や外出自粛となっているが、プランターで野菜や花を栽培したり、たこ焼きやお好み焼きパーティーを実施したりするなど、利用者が笑顔で楽しく暮らせるよう支援している。また事業所は新設のこともあり、地域住民との交流がほとんど取れていないこともあり、コロナ禍の終息後には、昨年中止となった夕涼みに地域住民が参加できるように声をかけをしたり、自治会長や地元の職員等の協力を得たりするなど、職員間で検討しながら、少しでも交流が始まることを期待したい。また、職員と利用者の良好な関係もあり、互いに声をかけ合いながら、和やかに過ごす様子を見ることができた。</p>
-------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	ケアプランを立案し日々のかかわりの中でできる限り対応している	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から思いや意向の聞き取りをして、フェイスシート等に記録している。日々の暮らしの中でも、職員は利用者に話しかけ、新たな情報を聞くこともある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や行動を見て少しでも意向に沿えるように努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	サービス担当者会議や面会時などを活用し話あっている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の希望も記録に残し職員間で共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	本人の思いを見落とさないように日々傾聴し観察している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	フェースシートを活用し家族からも情報を共有している	/	/	○	入居時に、利用者や家族からこれまでの暮らし方などを聞いて、所定のフェイスシートに記録しているほか、家族の面会時にも新たな情報を聞くこともある。また、以前利用していた施設や介護サービス事業所の介護支援専門員等から情報を聞くこともある。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人の出来ることに視点を置き対応している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	家族にも情報収集するが、本人の言葉や態度で把握する	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々、観察し把握できるよう職員とも情報を共有している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	健康管理表を活用し変化に対応している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	サービス担当者会議を行いケアプランを作成し対応している	/	/	○	月1回職員会を実施するほか、終了後には各ユニットに分かれて、カンファレンス等を実施し、職員間で話し合いをしている。また、課題等がある場合には、必要に応じて日々の申し送り時に、その日の出勤職員で、簡易のカンファレンスを実施することもある。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日常生活の中で何気なく発する言葉に耳を傾け検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ケアプランのモニタリングをすることにより課題を明らかにしている	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプランを立てる際、本人と家族に意向確認を行っている	/	/	/	利用者や家族の思い等と医師の意見のほか、職員の意見やアイデアを出し合いながら全職員で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。意思疎通ができない利用者にも、家族の意見を取り入れながら、以前の暮らしや表情などを参考にしながら職員間で検討して、介護計画の内容に反映している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人家族担当医師その他職員の意見を出し合いケアプランを作成している	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来る限り本人の思いをくみ取り意向に近い内容にしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族との協力体制は出来ているが地域の方との協力はできていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員全員が把握できるように個人ファイルに管理し、いつでも目を通すことができるように管理している	/	/	/	利用者ごとの個人ファイルに、介護計画の内容を分かりやすく貼り付けや記載をしておき、職員はいつでも介護計画の内容を確認することができる。サービスの実施内容は、介護記録のケアチェック表を活用して、分かりやすく記載しているほか、利用者の細かな様子や発した言葉も記載されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の申し送りの中、職員間で状況を確認している	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の暮らしの様子は介護記録に記載している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	介護記録又は申し送りノートを活用し記録している	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っているまた、状況に応じて見直ししている	/	/	/	◎ 初回は3か月に1回、2回目からは6か月に1回、介護計画の見直しをしている。月1回開催される各ユニットのカンファレンス等の中で、モニタリングを実施し、職員から活発な意見やアイデアを出し合いながら話し合うほか、計画の見直しの時期には、全職員が参加する職員会の中で、計画の見直しに向けた話し合いもしている。また、特段の変化のない場合にも職員間で話し合い、まだ例は少ないが、急変時には現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	特に変化がなければ、行っていない	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	×	変化が生じたときには、関係者と見直ししているが随時計画は作成していない	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回会議を行っている	/	/	/	月1回職員会を実施し、業務連絡等と終了後には研修を実施している。職員会後に、各ユニットに分かれてカンファレンス等を実施している。必要に応じて、その日の出勤職員で、申し送り後にその都度話し合いをすることもある。また、参加できなかった職員には、職員会の記録を確認してもらうほか、夕方の申し送り時にも伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見交換が出来る様にしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	工夫している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを作成し、全員に伝わるようにしている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートや個人申し送りノートを作成し活用している	/	/	/	◎ 申し送りノートを職員に確認してもらい、サインや押印をする仕組みができています。また、各ユニットの職員に確実に情報伝達ができるよう、朝の申し送り時には直近5日分の内容の情報を伝達されている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	介護記録に重要な内容を記載し、全員に申し送る内容は申し送りノートを活用し常時見れる場所に保管している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	訴えに対して可能な限り行っている	/	/	/	日々の暮らしの中で、職員から利用者へ声をかけ、思いや意向を聞いている。パンの購入希望のある利用者には、購入を行うが、他の利用者の中で食べることに影響を説明し、居室で食べられるよう支援したり、帰宅希望や外出希望のある利用者には、車でドライブをしたりしている。利用者にはレクリエーションなど、したいことを自己決定してもらえよう支援している。移動式のカラオケシステムがあり、みんなでカラオケを楽しんだり、季節を感じてもらえよう、近くの菜の花畑を見に行ったりするなど、利用者の生き生きとした表情が見られるよう支援している。職員が持ってきた土筆の袴取りには、喜んで取り組んでいた。意思疎通が困難な利用者にも、懐かしい歌を聞く時の目の動きや表情などから、思いを汲み取るよう努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	内容によって自己決定してもらっている	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人の気持ちを優先し、納得してもらえよう支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	個々のタイミングや体調に合わせた支援を行っている	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	傾聴や本人の喜ぶ内容の声掛けをしながら対応している	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	本人の思いをできる限りくみ取るよう支援している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	職員間で話し合いながら、常に意識し取り組んでいる	◎	-	◎	月1回の職員会後に、社内研修を実施しており、職員は利用者の人権や尊厳等について学んでいる。年2回事業所内で法人研修があり、「利用者のプライバシーや声かけ」などをテーマに取り上げた研修も実施している。気になる行為があった場合には、職員間で話し合いをしている。また、居室時の入室時にはノックして声かけをするほか、不在時にも事前に利用者へ声をかけて確認している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	敬意を図りながら対応しているが危険な時など大きな声が出てしまう時がある	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	個別にタイミング見ながら声掛けしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	本人が居室にいる際は、ノックと声掛けを行い了解を得て入室している	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職務としての守秘義務を守り業務している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	常に感謝の言葉を表現しながら関わりをもっている	/	/	/	認知症に伴い、利用者同士が言い合いのトラブルになる場合があるが、職員が間に入って仲裁をしている。職員は、利用者同士の関係性も把握しており、席替えなどの対応もしている。また、訪問調査日には、利用者同士が仲睦まじく、声をかけ合う姿を見ることができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いが尊重できる程度に関わりをもてるように配慮している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	日頃から利用者同士の関係性をよく観察しながら距離を調整している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士の距離や関係性をできる限る調整している	/	/	/	

愛媛県グループホームあすなる

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	特に担当職員は関係性の把握に努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族からの情報収集や利用者本人との関わりの中で把握に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	新型コロナウイルスにより他者との交流ができない				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族(契約者)了解を得ながら取り組んでいる				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	散歩や買い物の希望の時は、気温や天候に考慮しながら対応している。個別の外出は家族とも協力しながら行っている	○	-	○	現在、コロナ禍のため外出行事など、利用者の外出は制限されているが、事業所前の駐車場や2階のベランダに出て日光浴をしたり、プランターの野菜に水やりをしたりするなど、気分転換をしている。家族の協力を得て、外出をする利用者もおり、自宅に帰って一緒に食事をしたり、お墓参りをしたりすることもある。また、外出ができない代わりに、室内でたこ焼きやお好み焼きなどのパーティーをしたり、水鉄砲を使った遊びなどを取り入れたりする工夫もしている。介護計画の中に、外出支援を取り入れている利用者もおり、コロナ禍の終息後には、季節の花見などの外出行事を実施したり、近隣への散歩や買い物支援をしたりするなどの取組みを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	実施していない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	ベランダで日光浴等の対応を実施している				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	新型コロナウイルスにより実施していない				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	早めに対処できるように、都度職員間で話し合いを行い取り組んでいる				毎日10時から腰痛予防のため、利用者とはラジオ体操を実施している。廊下は長くて広く、手すりを活用しながら、歩行訓練をする利用者もいる。事業所には、「ケアの方針」もあり、「出来ることは自分でして頂く」よう取り組んでおり、職員は待つ支援や見守りを心がけている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で得意であったことを勧め日課にして日常生活動作を図っている。ベランダが広いため外気浴を行っている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	さりげない声掛けを行い、やらされ感が無いように気配りしながら一緒に行っている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	フェイスシートや家族からの情報を元に本人の楽しみ事を引き出せるように考え促めている。				食器洗いや洗濯物たたみ、毎朝の清掃など、利用者ではできることを手伝っている。事業所には移動式のカラオケ設備があり、1週間おきにユニット間を移動させており、歌うことを楽しみにしている利用者もいる。午前と午後にも、レクリエーションを取り入れ、風船バレーや輪投げ、塗り絵などを楽しんでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	残存機能を把握しながら無理なくできる作業を勧めている	◎	-	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	現在、地域行事は行っていない				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	持参しているものの中から選んだり勧めたりして身だしなみに興味をもって頂いている	/	/	/	毎日、自分のお気に入りの服を着たり、お化粧をしたりすることを楽しむ利用者もいる。起床時等に、衣服の乱れが見られた場合には、職員が声かけをして説明の上で、利用者に着替え等をしてもらっている。着替え等助の必要な利用者には、その日着てもらふ服を職員が声かけて、選んでもらえるよう支援している。また、2か月に1回、訪問理美容があり、利用者は髪型を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	入居前からの本人の持参を優先し納得いくように勧めている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	表情を観察しながら押しつけにならない様に支援している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は、本人の希望を聞きながら服装を決めている	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	指摘されるようなことがない様に気配りしながら対応している	◎	-	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望の店に行くときは、家族の協力のもと得ている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族の協力のもと行っている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	個々に合わせて楽しい食事が提供できるように支援している	/	/	/	事業所では業者の配食サービスを活用し、各ユニットで炊飯と汁物を準備し、食材を湯煎して盛り付けをしている。利用者の苦手な食材のメニュー時には、事前に業者に伝え、代替の食材を準備している。現在アレルギーのある利用者はいないが、利用者に食事形態に応じて、事業所内でミキサー食などの対応をしている。利用者は、食器洗いや下膳などできることを手伝っている。現在のコロナ禍において、利用者と一緒に食事はしていないが、以前は職員が持参した弁当等を一緒に食べることができていた。また、月1回は、職員が利用者のリクエストを取り入れた調理をしており、ばら寿司は特に利用者に喜ばれている。配食業者との会議は特設していないが、管理者等から業者に普段から意見を伝えることができて
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	下ごしらえなどができる利用者様と共に行っている	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	調理済みの食材を導入しているため、ほとんどできていない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	フェイスシートから情報を収集するとともに本人から聞き取りし職員全員が情報共有している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	フェースシートや家族からの聞き取りをもとにアレルギーなどは把握している。旬の食材は積極的に使用している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の機能に合わせて食事が苦痛とならない様に配慮している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	不具合があれば、使いやすいものを取り寄せて対応している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナウイルス感染症対策の為、現在は食事を囲めないが見守りながらその都度対応している	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	料理のメニューを話題とし、そこから本人の食べたいものを聴取りしている	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	専門の業者と契約し栄養バランスに配慮した食事を提供している	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医と相談しながら不足の部分を補えるように取り組んでいる	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	専門の業者と契約し栄養バランスに配慮した食事を提供している	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前の手洗いアルコール消毒を常に励行している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	訪問歯科の指導を受けながら口腔ケアの必要性重要性の理解に努めている				朝昼晩の食後には、居室の洗面台で口腔ケアを実施している。介助の必要な利用者は、共用空間の洗面台を活用して、職員ができない部分の介助をしている。定期的に、利用者一人ひとりの口腔内の状況を確認している。また、4月には、歯科医の協力を得て、口腔ケアの研修を予定している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケアの際に、各個人の口腔内の健康状態を把握している			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の利用の際には、積極的に指導をうけている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科の指導の下、技師の正しい手入れ方法を理解しながら利用者が適切に行える様にサポートを行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	一人一人に声掛けし見守りや介助を行いながら本人の口腔内の健康状態を把握に努めている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	不具合が生じた際は、訪問歯科受診を積極的に依頼している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修等をうけて排泄ケアの与える影響は理解している				事業所では、日中トイレでの排泄を基本として、声かけやトイレ誘導をしている。紙パンツやオムツを履いている重度な利用者も多く、職員が2人体制で排泄介助をしている。また、便秘の利用者も多く、利用者にマッサージを行ったり、ヨーグルトやホットミルクなどを取り入れたりする工夫をしている。便秘がひどく、改善しない場合は、医師に相談している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	原因と影響について社内研修などの機会を通し理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介護記録を活用し職員間で理解に努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人一人の状態や現状を見直し支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間での話し合いを密にし支援している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個人のペースを把握しながら時間などは個々に設定し対応している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の状況や排泄パターン(兆候)考えながら使用している。おむつ類の使用に関しては使用前に家族へも相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個別の状態に合わせて使い分けしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	現在は、ユニット内で出来る運動や水分摂取、食事形態などに留意しながら取り組んでいる				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	個々の習慣や希望に沿った支援には至っていない。一般的な習慣と、本人の意思を確認しながら取り組んでいる。	◎		○	利用者は希望に応じて、週2回以上入浴することができる。利用者の好きな温度や入浴時間の希望にも応じている。好きなシャンプーを使用したり、入浴後には保湿剤や化粧水を使用したりする利用者もいる。入浴を拒む利用者には、職員の声かけを工夫している。また、脱衣場のほか、浴室にも冷暖房が完備されて、利用者は温度差を極力感じることなく入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせてながら、ゆっくりとくつろげる環境になるように支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	安全面を考慮しながら適切に器具(シャワーチェア、手すり)を使用し支援している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	本人の理解を得られるように工夫したり声掛けに対応している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	その日のバイタルを確認し状態把握に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	巡回時間を中心に状況把握に努め、職員間で情報を共有し取り組んでいる	/	/	/	日中のレクリエーションなどの活動量を増やし、利用者が安眠できるよう努めている。睡眠につながりやすいよう、夕方に入浴する利用者もいる。利用者は21時ごろに就寝できているが、中には早起きの利用者もあり、早朝から職員が対応している場合もある。また、入居前から眠剤を服用している利用者もあり、医師と相談しながら減薬にも努めている。	
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を通して昼夜逆転しない様に取り組んでいる	/	/	/		
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	主治医と職員間で相談しながら支援している	/	/	○		
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室の環境下でプライバシーが保たれ心身を休養できる環境を整えている	/	/	/		
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人の希望があれば応じている、制限なく利用できる。	/	/	/		
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が手助けしながら電話の支援を行うことがおおい	/	/	/		
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	制限なく利用できる	/	/	/		
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	直接本人に手渡ししている	/	/	/		
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	希望される入居者様には職員が間に入り家族に協力をお願いしている	/	/	/		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	自己管理が難しいため、ご家族より預かっている	/	/	/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	職員や家族が代行し購入している	/	/	/		
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	現在行っていない	/	/	/		
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在は、感染対策として行っていない	/	/	/		
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	金銭の所持がないため行われていない	/	/	/		
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	所持できないとゆうルールを入居の際、家族に説明している	/	/	/		
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	個々に応じてその都度、職員の間で相談しながら取り組んでいる	/	◎	/	○	コロナ禍において、外出希望の要望には応えられない場合があるが、職員と一緒に買い物に行ったり、家族の協力を得て、自宅への帰宅やお墓参りに出かけたたりしている。また、家族が受診に同行できない場合は、職員が同行支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に来館出来るように玄関周りは清潔に保たれているが、現在はユニット自体への入館は禁止している	◎	-	○	事業所前には駐車場があり、スロープが備えられている。玄関前にはプランターがあり、花や野菜が植えられている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感を取り入れた飾りつけを行っている	○	-	○	事業所が開設して1年経過していないこともあり、利用者や来訪者、職員は新築ならではの気持ち良さを感じる。共用空間には、ひな祭りなど季節の飾り付けをしており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。職員と利用者が一緒に毎朝清掃しており、清潔感がある。ホールにはカウンターキッチンのほか、テーブル席やソファ席があり、ほとんどの利用者は日中に共用空間に出て、レクリエーションを楽しむことができている。また、2階にはベランダがあり、利用者は日光浴などをしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を実施し汚れた際にはその都度、掃除を行っている	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節によって飾りつけを行っている。季節の花や野菜などを手に取り季節感を味わっている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フロアの席を変えたり、自由に自室で過ごせるよう特に制限していない	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	直接見えないような環境になっている	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時より自宅で使用していた家具など馴染みのあるものを持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう工夫している	◎	/	◎	居室には、ベッドや洗面台、クローゼット、タンス、カーテン等が備え付けられている。利用者はぬいぐるみやテレビ、空気清浄機、CDラジカセなど、思い思いの物を持ち込むことができる。居室の入り口は引き戸で、写真付きで名前を表示している部屋もある。また、毎日職員が清掃し、清潔が保たれている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	自室やトイレなどに目印をつけ配慮工夫している	/	/	○	利用者が居室を間違えないよう、入り口には許可を得て、写真と名前入りの表示をしている。トイレなどの表示も大きくしているが、どうしても間違えてしまうこともあり、職員は迅速に対応している。また、利用者の動線を確保し、極力空間には物を置かないようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	個別に検討し不安や混乱が少なく過ごせるように工夫している	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞などの比較的安全なものは手に届く場所に設置している。危険を伴うものは生活環境の中に設置はしていない。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員一人一人が鍵に対する弊害に対して理解している	x	-	△	職員は、職員会後に実施する身体拘束防止等の研修や話し合いで、鍵をかけることの弊害を理解している。現在コロナ禍のため、外部からの入室制限を設けており、日中も施錠を行い、来訪者にはインターホンで対応をしている。また、ユニット間の出入り口等は、24時から4時までの夜間のみ施錠している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居者及び家族へは説明理解が得られるよう働きかけている	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者の状態にもよるが、日中は出来るだけ鍵をかけない様に心がけている	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルにて管理している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートに記録し周知している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	往診にきている先生に相談している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人家族が希望しているかかりつけ医を受診。個々でかかりつけ医が違う。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が得られるように医療との連携を取り支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告を家族に伝えて情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度情報提供をおこなっている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院側からの病状の経過説明受けたり早期退院に向けて話し合っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院設備の整っている医療機関とは関係作りはできている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	その都度報告や相談をしており病状安定が図られている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡が可能な体制作りが出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の申し送りやミーティングなどを通して支援方法の統一を図れている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個々に服薬情報を整理しファイルをミーティングで情報共有している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬管理表や薬箱を使用し準備、服薬前、服薬時に確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に副作用に注意している。また、定期薬の変更時には特に気を付け変化があれば主治医に相談している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期受診時には必ず状態を報告している				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合い本人・家族の意向に沿える様に支援している	/	/	/	事業所での看取りは実施していないため、指針等は作成していないが、入居時に利用者や家族へ、事業所でも対応できることなどを説明している。事業所は開設して1年目のため、入退院した利用者はいるが、急変時にはかかりつけ医に連絡するほか、病院へ救急搬送することとなっている。また、健康管理等のため、2週間に1回、医師の往診がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	家族と主治医の話し合った方針の決定は全職員で方針の共有を行っている	○	/	△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフに不安な事を聞き取りいつでも連絡がつくようにしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約書の文面内に記載したり、必要時に再度説明している	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医との医療連携を行いながら、本人が苦痛なく暮らせる方法を指導してもらっている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族からの話には積極的に耳を傾け心理的支援に取り組んでいる	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	流行時期に感染予防について話し合っている	/	/	/	事業所での看取りは実施していないため、指針等は作成していないが、入居時に利用者や家族へ、事業所でも対応できることなどを説明している。事業所は開設して1年目のため、入退院した利用者はいるが、急変時にはかかりつけ医に連絡するほか、病院へ救急搬送することとなっている。また、健康管理等のため、2週間に1回、医師の往診がある。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルがある	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビやインターネットで最新情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	マスク着用・消毒手洗いの徹底と面会の制限を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員のマスク着用・手洗いうがいの徹底と来訪者にも入口に張り紙で感染予防対策をお願いしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の些細な事でも家族に報告し状況を共有しコミュニケーションを行い信頼関係が築けるように努力している	/	/	/	現在のコロナ禍において、家族との面会が自粛となっている。感染症対策が落ち着いている時には、事業所前の駐車場に出て面会をしていたほか、入口エントランスとホールのガラス越しに面会をする対応をしていた。家族の面会を制限しているため、職員が家族に会う機会が少ないが、電話で受診時の報告や日々の様子を伝えて意見を聞いているほか、月1回、利用者ごとに管理者等が書いた便りと写真を掲載したものを送付し、喜ばれている。また、夏に開催を予定していた夕涼み会が中止となり、交流もできていない。コロナ禍の終息後には、家族と一緒に参加できる行事を開催したり、家族とのコミュニケーションを密にしたりするなど、良好な関係づくりができるような取組みや検討を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	職員は常に笑顔を心掛けた話しやすい雰囲気を作るように努めている。現在コロナ状況により面会時の入室は不可。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルス感染症対策の為、現在できていない。	×	/	×	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎通となっている家族はいない、生活状況など面会時や手紙で報告できている	/	○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の面会時や電話にて対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会が少ない家族には、本人が掛けられ喜び言葉が発せられる様に配慮している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	今回の会社の運営にはんする変更は面会時と手紙で報告した	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルス感染症にて、中止となっている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては都度説明し理解を得て対応等検討している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時は家族と話す機会を多く持つようになっている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	家族に来館して頂きその都度説明し理解を得ている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退去時に条件について説明している。納得の退去になるよう説明し行先も相談している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	口頭で説明及び書面にて了承を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	2か月に1回、運営推進会議を開催し事業所の説明や問題点、認知症の理解を深める予定だがコロナウイルス感染症の為、自治会長のみにしている	/	-	/	昨年5月に新規開設した事業所として、新たに地域の自治会に加入したが、コロナ禍のため地域行事等ほとんど開催されていない。地域住民にも参加を呼びかけて開催することを予定にしていた夏の夕涼み会もコロナ禍のため中止になり、交流はできていない。職員等が地域住民と出会った場合には、挨拶や声かけをしている。今後は、少しでも近隣住民とのつながりができるよう、自治会や地元の職員等を通して、関係づくりができるよう検討することを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	自治会に入会し行事等への参加は出来ていないが、日常声掛け挨拶は行っている	/	-	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	立ち上げより年月が浅く周知はされていない	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルス感染症の為、来館を控えている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	日常的挨拶などは実施しているが気軽に立ち寄れる関係性は構築できていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルス感染症の為、行っていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	感染状況を踏まえ参加は控えている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	感染状況を踏まえ交流は出来ていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	感染状況から、文章にて行っている	×	/	△	運営推進会議は、コロナ禍のため事業所が開設して以来、書面での会議開催となっている。市担当者や自治会長等にも事業所の出来事や様子が伝わるよう、利用者の様子等の写真やコメントを掲載した報告を一緒に送付している。コロナ禍の終息後の集合形式での会議開催時には、参加者と意見交換をしたり、家族等も含め、少しずつ参加者が増えるような呼びかけを工夫したりするなど、サービスに反映できるような会議開催となることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	文章にて報告となっている	/	/	△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	家族からの貴重な意見や思いをサービス向上につなげられる様に取り組んでいる	/	-	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナウイルス感染症の為、できていない	/	-	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は公表していない	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎朝の申し送り前に唱和し、常に心掛けに取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	ご家族や利用者の方、地域の方には十分な理解に繋がっていない	△	-		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	外部研修には数人参加出来ているが、社内研修で取り組んでいる				毎月開催する職員会の終了後に研修を実施し、職員育成に努めている。年1回ストレスチェックのほか、必要に応じて管理者等が職員と面談をしている。また、3か月に1回代表者の訪問があるほか、法人の担当部長の訪問もあり、管理者や職員の意見を聞いてくれる。管理者等を中心に、職員の意見を聞き、動きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	職場内においては計画的に取り組んでいる				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	ストレスチェックや個人面接を行い職員状況を把握しようと努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	大切さを理解しているが積極的参加に至っていない				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員が働く甲斐を感じながら日々の常務に取り組める様、努力している	◎	-	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的を実施している				身体拘束・虐待防止等を研修テーマに取り上げ、職員は学んでいる。職員が不適切なケアを発見した場合には、管理者に報告することとなっている。職員と利用者の関係性も良く、目立つような不適切なケアは実施されていない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやユニット会などの機会を通して問題点を話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	対処法は理解しているがマニュアルが全体には周知徹底はしていない				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	日常的に職員の意見を聞き介入している				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	委員会が設置され周知徹底が出来るように努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	不明な点は委員会に報告相談を仰ぐようにしている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	常に家族に身体状況を報告しケアの取り組みやリスクについて話し合っている				

愛媛県グループホームあすなろ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	大まかに理解している、現在は必要な人がいないので十分な理解に至っていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	対象となる利用者がいない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	法人は常に相談に乗ってもらえる弁護士や司法書士がある				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急マニュアルがある				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応について日頃より話し合っている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書を全員が確認して再発防止について話し合っている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全体会で個々の現状を確認してリスクの高い入居者については事故防止のための話し合いをしている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがある				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情はない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情はない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員さんが来所し入居者の話を聞いてくれる			○	職員は利用者から、日々の暮らしの中で意見や要望を聞いている。家族からは、電話での報告時等の意見を聞いている。管理者等は、職員から意見を聞き、出された意見は法人の担当部長に伝え、対応している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時家族から機会を作っている		○	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	適宜行っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	事業所に足を運んでくれている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員から提案を聞いたなら実現出来るように支援している			○	

愛媛県グループホームあすなる

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	出来ていない				初回の地域密着型サービス外部評価のため、自己評価は各ユニットの管理者が職員の意見を取り入れながら作成している。今後は、外部評価のサービス評価をもとにして、目標達成計画の作成や運営推進会議での報告を予定している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	×	出来ていない				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	出来ていない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	出来ていない	×	-	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルがある				開設以来、火災を想定した避難訓練を実施し、事業所前の駐車場に避難体験をしている。4月には、消防署の協力を得た防災訓練を予定している。事業所の建物の隣にある同法人のサービス付き高齢者向け住宅に、3日分の食料品を備蓄している。自然災害防災マニュアルがあるが、事業所の現状に対応していないため、マニュアルの見直しや整備することを望みたい。また、万が一の火災等の災害に備え、地域住民の協力が得られるような検討を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	様々な時間を想定し訓練を実施した訓練後話し合いを行い意見を出しあっている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備点検は定期的を実施。非常食に関してはまだ未定であるが今後非常食管理する予定(非常食の飲料水は確保済み)				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防署と連絡とり話し合いを設けているが明確な協力支援体制の構築には至っていない	×	-	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	合同訓練には至っていない				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入居者の家族の相談支援を行ったことがある		-	△	コロナ禍もあり、地域住民との交流はほとんどできていないため、事業所の関係者の相談支援のみに終わっている。事業所では、外国人の技能実習生の受け入れをしている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	海外からの介護実習性を受け入れた				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	行っていない			△	